

学校教育の構造と転換

福祉国家の教育を批判する

【事前課題】

下記の意見を 200 字以内で批判しなさい。

批判できない場合、「批判なし」と明記しなさい。（批判できない理由は必ずしも書く必要はないが、もし明確な理由がある場合、200 字以内で書きなさい）

「北欧福祉国家の教育には学ぶべき点が多い。例えばフィンランドでは、教育費は乳幼児から大学院まで無償の上、高校生まで両親に子ども手当、大学生には本人に給付制奨学金・住宅費等が支給され、出身家庭の経済状況に関係なく教育機会が平等に保障されている。成人教育も充実し、いつでも誰でも『学び直し』が可能だ。学校では生徒の個性・自主性が尊重され、国家による教科書検定もなく、教師の専門職としての判断が重視されている。小人数クラスで、教師の長時間労働もない。授業時間は日本の約半分と短く、学力テストも受験も偏差値もない。それでも国際的に見て高い学力水準が達成され、「世界の教育」として注目を集めている。

こうした教育の成果として、豊かな社会が実現されている。国民 1 人当たり GDP は日本の約 1.2 倍、教育以外の福祉も充実し、治安も良く、「幸福度ランキング」の国際比較では総合 1 位（日本は 56 位）である。

もちろんフィンランドの教育や社会にも、さらに改善すべき問題点はある。しかし大きな方向性としては、日本も北欧福祉国家を一つのモデルとして、教育・社会改革を進めていくべきである。

また日本とフィンランドは、ともに資本主義・国民国家に基づく近代社会だ。同じ資本主義・国民国家であっても、このような多様性がある。この講義は、学歴社会や管理主義教育の根底に資本主義・国民国家があると述べているが、それは間違っている。資本主義・国民国家の下でも、フィンランドのような教育を目指すことは可能だ。」